

(実践報告) 抄録用紙

|                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 演題名<br>(全角 80 字以内) | 介護者の負担感に関する調査を実施して  |
| 演者名                | 高橋聡子 長田春美 溝上純子 藤森仁美 |
| 所属                 | 生協ケアプランセンターみどり      |

目的

介護支援専門員として利用者の居宅サービス計画を作成するにあたっては、本人の自立支援という視点は当然のことながら、しばしば介護者の支援というニーズへの対応も必要となってくる。様々な介護者の言葉を聞き、個々のケースでの実践を積み重ねている訳だが、今回改めて介護者の思いを調査し、その傾向や注意点について、客観的に見直すことに取り組んでみたので、その結果を報告する。

調査方法

2014年9 - 10月に当事業所の利用があった約280名のうち日頃から介護にあっている介護者がいる約170名に Zarit 介護負担尺度日本語版の質問用紙を記入してもらった。介護者の属性として、性別、年代、要介護者の介護度、認知症の有無、介護期間を確認した。

結果と考察

(グラフを作成し結果を表示) 属性による負担感の差異、項目による差異を検証

まとめ

調査を実施する中で、支援者の予測と介護者の思いに差がある場合もある事が確認できた。複数介護者がいる場合については、回答者によって結果が異なるであろうことも予想された。考察によって得られた傾向を踏まえながら、やはり個々のケースの状況をしっかりと捉え個別の対応をする事が重要である。時にこうした調査票を活用して情報収集することも有意であろう。

また、今後は軽度・高度のケースについての分析、認知症以外の疾患による差異の有無、利用している介護サービスの種類や量による差異の有無についての検証をしたいと考えている。幾つかのケースについて継続調査を行い属性の変化による負担感の変化についても確認できればと考えている。